

# 日本学校教育相談学会

The Japanese Association of School Counseling and Guidance

## 会報

## JASC

第 53 号

- 1 ◎巻頭言
- 2 ◎第29回全国大会の案内//研修委員会
- 3 ◎認定委員会//学会誌作成委員会
- 4 ◎広報委員会//ガイダンスカウンセラー関連情報//先輩に聞く
- 5 ◎先輩に聞く
- 6 ◎【北海道支部】一部活動報告一//中央研修会の予告
- 7 ◎中央研修会の構成//震災被災者（地）支援委員会報告
- 8 ◎会長コーナー//事務局より//第53号編集後記

### 巻頭言

### 私と教育相談

ふと頭の中をよぎります。来談者を前にして面接をしているとき、「この方の私と過ごしているときの満足度はどれくらいなんだろうな」と雑念が入ります。そんなことを気にしているときの相談の質はたかがしれているのですが、「これって評価を気にする自分がいることになり、行き着く先は『とても楽になりました。よかったです。またお願ひいたします』という見返りを期待することにつながるのだ」と思うのです。なにもそこまで思い詰めなくてもというもう一人の自分もいるにはいるのですが…。

今もお元気ですが、かつて本学会日野宜千（ひのたかゆき）名誉会長が栃木でカウンセリングの諸活動を精力的に行っていました頃「カウンセリングに見返りを要求してはならない、黒子に徹しなさい」とどこかの講座で戒めていたことがあります。

カウンセリングの「力」の字を少しかじっていた頃こんなエピソードがありました。夏休み中の保護者面談です。半数近い保護者が「お世話になっています。ふつつかな息子ですがよろしくお願ひいたします」と帰り際に挨拶をすると同時に何やら大小の包み紙やら紙袋を手渡すのです。まさか箱の底には



栃木県支部 柴 一弥

「黄金色に輝く物」が…。それはないにしろ受け取りは辞退していました。日野先生の「お言葉」がそうさせていたのです。持ってこられた野菜のネギ束まで受け取らなかったときは「おまえはばかだな、硬すぎるよ、社交辞令だよ」と職員室の大先輩たちからあきれられたこともあります。

カウンセリングの学びの中で、「深情けは禁物」「転移にはまるな」「お金に拘泥したらやめよ」と倫理的なことも含め、こういう「つかず離れず」の二律背反、皆様はどのようにバランスを取っているのでしょうか。まだまだ分からないこと、知らないことがこの先にありそうな予感でいっぱいな私です。

## 第29回 全国大会の案内 暖かい眼差しの輪の中で ～第29回研究大会千葉大会のご案内～ 実行委員長 田邊 昭雄

全国の会員の皆様、年度始めの御多忙な時期をいかがお過ごしでしょうか。

私ども千葉県支部では、8月に行われる全国大会に向けて、着々（??）と準備を進めているところです。実施を間近に控えながら、なかなか上手くいかないところも沢山ありますが、皆様を滞りなくお迎えできるよう最大限の努力を払っております。

かつて第35代アメリカ合衆国大統領ジョン・F・ケネディは、その就任演説において「合衆国が諸君のために何を成し得るかを説いたもうな、諸君が合衆国のために何を成し得るかを説いたまえ」と国民に訴えたと聞き及びます。

千葉県支部一同準備のために最大限の努力をいたします。しかしながら、それだけでは大会は上手くいきません。参加者お一人お一人の「学び」への食欲なまでの意欲、そして学校教育相談への篤い志こそが最も大事であると思います。

その具体化の為に、先ずはどうぞお友達をお誘いの上、参加申込書に自らの名を記すことから始めようではありませんか。皆様方の精力的なご参加をお待ち申し上げます。

大変お聞き苦しい口幅ったいことを申し上げてしましました。どうぞ平にご容赦くださいませ。

今回教育講演をお願いしている星槎大学大学院の大野精一先生からは、こちらからご依頼する前に、すでに4月のはじめに講演用の配布資料の原稿をいただきました。大野先生をはじめ、各演者の方々の御準備も着々と進んでいることと思います。どうぞご期待ください。

さて、今回は、以前の案内で触れられなかったところを中心にご紹介いたします。以前の案内では、開催が未確定で、当日のお楽しみとご案内したランチョンセミナーですが、8月5日（土）の昼食時に2会場で実施することとなりました。以下は、その内容と講師です。

### セミナーI 「異文化理解 ナバホとの交流」

講師：メディア総合研究所 福田訓久 先生  
福田先生は、ユネスコスクール関係で児童生徒間

のグループワークのファシリテーターを多数手がけていらっしゃいます。また、ご自身は高校卒業後、単身アメリカに渡りネイティブ・アメリカンのナバホ族との交流を深めました。ナバホの大学で学ばれた二人目の邦人とお聞きしています。異文化交流とその理解に関する貴重なお話が伺えると思います。

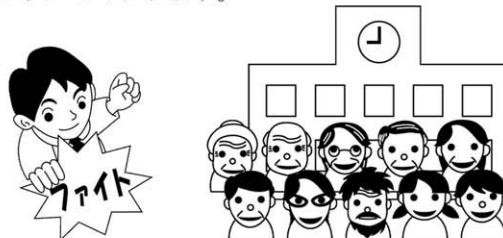
### セミナーII 「台湾における輔導教師の仕事」

講師：國立鳳新高級中學 王慧婕 先生

王先生は台湾の高雄市にある國立鳳新高級中學の輔導主任をされています。高級中學とは日本の高等学校のことです。今回、千葉県高等学校教育研究会教育相談部会（会長：福原祐一 千葉県立松戸南高等学校長）が夏季研修のために招聘しました。そこで本学会でもお話を聞くことをお願いしたという次第です。台湾の学校における教育相談体制の要として、輔導教師が行う具体的な仕事の一端を垣間見ることができます。

ランチョンセミナーは、昼食休憩場所で、食事をしながら気軽に講師のお話を聞くことができるようになりました。お昼休みのうち、30分程度の気軽なセミナーです。どうぞショーケース感覚で、お気軽にご参加いただけたとあります。

それでは、8月に幕張の地でお会いできることを楽しみにしております。



### 研修委員会

### 千葉大会のワークショップと

#### ラウンドテーブルについて

平成29年8月4日（金）に神田外語大学で「第18回夏季ワークショップ（千葉大会）」、8月6日（日）にホテルポートプラザちばで「第6回ラウンドテーブル（研究大会）」を開催します。ワークショップとラウンドテーブルの会場が異なりますのでご注意ください。ワークショップは7コースで実施します。講座の詳細は会報に添付されている案内文をご参考ください。

ワークショップは各コース定員30名ですが、申込みは先着順になります。参加申込み数に偏りがある場合は定員の増減を調整しますが、会場の関係で収容人数に限界があります。第一希望での参加を切望される方は、早めにお申込みください。参加申込み状況は、例年通り、学会ホームページに掲載します。締め切り（宿泊なしの場合は7月19日）前には頻繁に申込み状況を更新していますので、コース選択の際にご参考ください。

研修委員会主催の第6回「ラウンドテーブル」は、「保護者支援を語り合う～対応から協力・連携まで」のテーマで行います。千葉県子どもと親のサポートセンター教育相談部研究指導主事の松田憲子先生より話題提供・問題提起をしていただき、小中高の各テーブルを囲んで研修委員がファシリテートしながら進める予定です。「ラウンドテーブル」は「教えていただく受動的な研修」ではなく、「学び合う能動的な研修」です。実践と研究の統合を目指す学会のアクティブラーニングです。会員参加型の学習で話題提供・問題提起を受けて、参加者が各自の体験や実践を語り合い、事象や問題に対してより理解を深め、多角的な対応策や解決策を学び合います。教育現場に直接役立つ研修です。

研修委員会の活動は、研究大会前日のワークショップと研究大会でのラウンドテーブル、中央研修会のプレ講座・シンポジウム・コース別講座の企画運営です。研修企画は多様な要望を受けて検討しています。学会の役員会や各委員会、大会主管支部の要請等も受けますが、最大の要望は参加する会員の皆様の声です。ワークショップや研修会終了後にアンケートをお願いしています。ご希望の研修テーマや講師を是非ご記載ください。研修企画に際しては、経年の研修企画を考慮し、適応・学習・進路・健康的な教育のマルチエリアと問題解決・問題予防・開発教育のマルチレベルの内容を検討しています。

(文責：研修委員長 渡辺 正雄)

## 認定委員会

平成28年度学校カウンセラー認定のための面接を東京会場・群馬会場・沖縄会場の3会場で実施しました。平成29年2月26日に審査会を実施し、推薦9名を含め44名の新しい学校カウンセラーを認定いたしました。更新は第2回、第7回、第12回、第17回の学校カウンセラーの方々が更新年度で

106名（3月現在）の方が更新されました。

また、ガイダンスカウンセラーについてはスクールカウンセリング推進協議会の資格認定審査により、学校カウンセラーを基礎資格として22名のガイダンスカウンセラーが認定されました。ガイダンスカウンセラーは、本年度より年会費が必要になりましたが資格をお持ちの方は年会費を納入して、ぜひ資格を継続して下さい。ガイダンスカウンセラーの資格を生かして学校現場で活躍していただけますようお願いいたします。

スーパーバイジョン制度については、追加認定の14名を加え、認定されたカウンセラー・スーパーバイザー（86名）の名簿を配布させていただきましたが、まだこの制度が十分に活用されている現状ではありません。様々な課題を見直しながら、各県支部で活用できるよう認定委員会で検討していきます。

29年度の「学校カウンセラー・ガイダンスカウンセラー実践研究会」は、平成29年11月26日（日）に東京で神戸と同様に講師に栗原慎二会長を迎えて「学校教育相談のこれから～予防的・開発的な教育プログラムの実践～」というテーマで講演していただく予定です。

(文責：認定委員長 青木 美穂子)



## 学会誌作成委員会

会員の皆様におかれましては、学会誌作成委員会の活動にご理解とご協力を賜りありがとうございます。

今回、投稿規定と審査に関するガイドラインの一部を改訂しました。まず、投稿規定です。投稿原稿の分類が、従来の「研究論文」「実践事例」「資料」の三つから、「研究論文」「実践論文」「実践報告」「資料」の四つになります。次に、ガイドラインです。審査結果が、従来の「掲載する・修正の上掲載する・掲載しない」の三段階から、「掲載する・修正の上掲載する・修正の上再審査する・修正の上次号以降再審査する」の四段階になりました。詳細は、学会誌27号巻末をご覧ください。

これらの改訂により、会員の皆様がより投稿しや

すぐ、論文の掲載可能性がより高まるようになると  
考えています。

また、今後「寄稿論文」を、これまで本学会の発展に功績のあった方や学会賞・小泉英二賞を受賞した方に執筆依頼をすることで、学会誌をよりボリュームと中身が充実したものにしていきたいと考えています。

研修について、夏の大会と1月の中央研修会にて、論文作成に関するワークショップを今年度も実施します。是非ご参加ください。また、ワークショップへの参加の有無を問わず、日頃の学校教育相談実践をまとめていただきご投稿いただけますよう、お願いいたします。

(文責：学会誌作成委員長 長坂 正文)

## 広報委員会

ガイダンスカウンセラーに関連する情報を知ることは、学校教育相談を進めるうえで、資格を持つことの意義や良さを知るうえで、とても役立つと考えています。一般社団法人日本スクールカウンセリング推進協議会の理事であり、文部科学省の「学校における教育相談等に関する調査研究協力者会議」の委員である加勇田修士先生のご協力で、最新の情報を提供していただいている。

(文責：広報委員長 梅川 康治)

## ガイダンスカウンセラー関連情報

文科省スクールカウンセラー等活用事業実施要領が改訂（平成29年4月1日付）されました。新しく、1ページ目の(1)スクールカウンセラーの選考に、「④都道府県又は指定都市が上記の各者と同等以上の知識及び経験を有すると認めた者」が加えられました。

文科省 児童生徒課に尋ねたところ、「上記の各者と同等以上の知識及び経験を有すると認めた者」とは、「ガイダンスカウンセラー」を指し、各県の教育委員会から問い合わせがあれば、このことを徹底していくことが確認されました。

来年度の実施要領には、具体的に「ガイダンスカウンセラー」を載せる方向で働きかけていきます。また、平成29年3月31日付で「学校教育法施行規則の一部を改正する省令の施行について（通知）」が発表されました。注目すべき内容は、3ページの

①スクールカウンセラーの職務内容についてです。  
(不登校、いじめ等の未然防止と、  
早期発見、支援・対応等)

- ・児童生徒及び保護者からの相談対応
  - ・学級や学校集団に対する援助
  - ・教職員や組織に対する助言援助（コンサルテーション）
  - ・児童生徒の心の健康、児童生徒及び保護者に対する啓発活動
- (不登校、いじめ等を認知した場合又はその疑いが生じた場合、災害等が発生した場合の援助)
- ・児童生徒への援助
  - ・保護者への助言・援助（コンサルテーション）
  - ・事案に対する学校内連携・支援チーム体制の構築・支援

これらは、まさにガイダンスカウンセラーの専門分野であり、今後我々の実践・実績が求められる内容です。

4月13日の「第3回公認心理師カリキュラム等検討会」を傍聴しました。石隈日本スクールカウンセリング推進協議会副理事長が委員として出席し、ガイダンスカウンセラーが参加できる制度にするという方向で積極的に発言しています。第4回（最終回）が5月10日に開かれる予定です。今後、一般社団法人日本スクールカウンセリング推進協議会の公認心理師対策チームとしても、大きな山場を迎えている段階として、石隈委員を支援していきます。

(文責：加勇田 修士)



先輩に聞く  
「私と教育相談」  
名譽会員 大日方重利

大日方先生は、東京教育大学（現筑波大学）の大学院生時代に教育相談の指導・訓練を受け、大阪教育大学の臨床心理学担当の教員として採用され、その後神戸学院大学、静岡産業大学を経て、現在はNPO法



人のカウンセリング協会に所属しております。臨床心理学や教育心理学等の心理学授業を講じながら50年余にわたり教育相談（心理相談）の実践と研究を続けておられます。

本学会には設立2年目から参加されており、当初から大阪府支部理事を続けるとともに、長年にわたり学会誌作成委員会委員長（全国理事）を勤め、現在は名誉会員です。

以下は、大日方先生にインタビューした内容の概略です。

### 1. 教育相談実践について

私は小・中・高などの教師としての経験はまったくなく、大学の相談室や各地の教育委員会の教育センター、さらに民間の相談機関にて相談に携わってきました。したがって対象者も児童・生徒のみならず一般成人も含まれますが、教育大学に定年近くまで勤めていた関係もあり、児童・生徒さらに大学生といった青少年を対象とした「教育相談」の件数が多くたんですね。しかし勤務している大学での学生を対象とした“学生相談”的場合は、小・中・高の教師が勤務校にて行う教育相談と状況は基本的に変わらないと思います。けれども大学生たちは、高校生までと違って自分の大学の教師であっても、あまり身構えることなく関わることができ、いわゆる教師と生徒という間柄の緊張感はかなり少ないと思います。

一方、大学や教育センターなどに外部から来談した生徒や保護者に対して、私は純粋にカウンセラーそのものとして対応してきたつもりでした。しかし最近では果たしてそのように断言できるかどうか疑問に思うようになっています。その理由は2つあります。一つ目は私自身が教員としてのスタンスを無意識的に取りいれていたのではないか？ということです。そして二つ目は、大学教員としての私の身分が生徒に知られていることも多かったので、このことが来談者の側に何らかの心理的影響を与えていたとも考えられるのです。

### 2. 教師が教育相談を行うということ

このことに関連して、教師が自分の勤務している学校においてカウンセリングを行うことについて私の考えを述べたいと思います。

一般にカウンセリングとは、カウンセラーと来談者の間にある種の関係を結ぶことです。この「関係性」とは親子や友人などのような日常的な関係ではない特別な心と心の絆です。すなわちカウンセラー

が教師であっても、あくまで一人の人間として生徒に関わることが基本です。そのため教師と生徒としての関係がある程度強い場合（担任とか教科指導を受けているなど）には、生徒は指導者や評価者としての教師を強く意識するために、カウンセリングとしての関係性を築くことが困難になります。そうでなければ、学校における教師によるカウンセリングは、生徒自身や周辺状況などの情報が得られやすいというメリットもあり、臨床心理士などによるカウンセリングと同等の効果があると思います。現にカウンセラーとして実績をあげておられる優秀な教師が全国に数多くいると思います。このような教師による実践がまさに本学会の目指す「学校教育相談」だと言えましょう。

### 3. カウンセリングの真髄

さらに私が強調したいことは、カウンセリングを行うのが教師がよいか臨床心理士がよいかということではなく、先ほど述べたように、生徒といいかにカウンセリングとしての「関係性」を結べるかということです。このことはしばしば「生徒に寄り添う」とか「共感的理解」と言われます。しかし私は、このような言い方では不十分だと思っています。

なぜならこの種の表現は、カウンセラーの側からの一方向的な関わり方でよいと考えられやすいと思います。そうではなく、カウンセラーと生徒の心に共通のベルトがかけられてお互いに響き合い、働きかけ合うという相互作用が存在することが真の「関係性」だと思います。具体的に言えば、カウンセラーは生徒の気持ちを理解していて、そのことが生徒にも伝わっていること、生徒はカウンセラーを信頼していて、カウンセラーも生徒を信頼している、など「相互理解」とか「相互信頼」が成立することがカウンセリングの効果を最大にする真髄であり基盤だと思います。なぜなら、一般に人間同士が相手の心を真に理解したり、よい影響を及ぼすためには、お互いに相手が思ったり、感じたりしていることがわかりあえるという「相互主観性」によるものであるからだと思うからです。

以上が、自分のカウンセリング実践を振り返って近頃思うところです。

（文責：広報委員 坂本 高英）



## 【北海道支部】一部活動報告一



### ◆カウンセリング教育からカウンセラーエducationへ

全国の学校にスクールカウンセラーの常勤配置が検討されている状況の中、その重要性や教育相談それ自体への定着化が少しずつ進んでいるように思います。

北海道支部は、29年度のテーマとして、「カウンセリング教育からカウンセラーエducationへ」を掲げ、取組を始めています。教育に携わる者として、これからスクールカウンセラーの資質を考えていく機会と考えています。公認心理師、臨床心理士等の心理系カウンセラーに対し、本学会の学校カウンセラーは、教育系カウンセラーと言われています。カウンセリングの技法や心理療法などを駆使したカウンセラーも必要な場合もありますが、学校現場を理解し、集団で個を育むこと、予防的や開発的なカウンセリングを実践していくカウンセラーが今、教育現場では望まれています。

今、理論や方法に囚われ過ぎて、目的という大切なものを忘れてしまっているのではないかと感じるときがあります。「なおす」というのではなく「わかる」という観点で、子どもの立場に立って理解し、大人の立場になって支援・援助するという原点に戻った「カウンセラーエducation」を意識した活動を行おうと考えています。

### ◆東北・北海道ブロックの連携

青森県支部でブロック研修会が実施された時をきっかけに、宮城県支部と北海道支部との連携がスタートしました。北海道支部でのブロック研修会では、青森県支部からの参加者もあり、山形県支部との連携も模索しています。震災から6年になる宮城県支部への連携も、本部と連絡を取りながら少しずつ始めようとしています。

### ◆実践発表会の実施と紀要の作成

多くの貴重な実践の場をあらためて設けようと、単独で実践発表会を実施することにしました。学校カウンセラーをめざす人の発表の場や自分の実践を

振り返る場として有効に活用しています。また、紀要の執筆に伴い、研究論文の書き方も含め、外部協力委員からご意見やご指導をいただいております。

### ◆入会方法や学校カウンセラーの資格取得

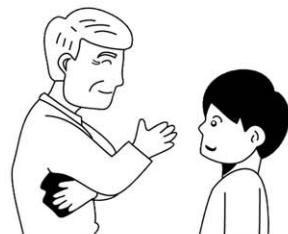
支部ホームページの掲載はもちろん、研修会での相談コーナーの設置、面談やメールでの個別の問い合わせに応じ、啓発活動をより充実させています。その効果もあり、新会員の増加につながっています。

### ◆先を見通した若手育成の事務局体制

支部事務局員は、全道に点在しています。可能な限り、事務局会議を行い、意志疎通を図っています。また、役員の高齢化に伴い、事務局員の発掘を行いながら、組織の見直しをしています。今年度から4つの委員会組織にし、各委員長がメールで提案する形をとり、分担が偏りのないようにしています。全事務局員が担当者の動きが見えるように、今、行っている内容を全員にメールし、情報を共有しています。

そうすることにより、各委員会の仕事内容の把握や記録化にもなります。なかなか集まらない事務局が、こうしたメールのやり取りで、お互いの仕事の確認や助け合いが自然と生まれてきています。それは、恒例の北海道グルメの事務局会議や有志の小樽海鮮の小旅行などで積み重ねていった信頼関係があるからです。

(文責：北海道支部理事長 畠山 貴代志)



## 第28回中央研修会の予告

平成30年1月6日（土）～7日（日）、東京都渋谷区の国立オリンピック記念青少年総合センターで、第28回中央研修会を開催します。一部は交渉中ですが、概要をお知らせします。詳細は11月の会報でご案内しますが、10月下旬には学会ホームページに募集要項を掲載します。参加申込み状況は、11月中旬からホームページでお知らせします。お誘い合わせの上、ふるってご参加下さい。

今年度の中央研修会の構成は昨年度と同様です。初日にプレ講座3コースとシンポジウム、その後、教育相談カフェ（交流懇親会）。2日目にコース別講座7コースを予定しています。テーマは全て仮題です。

### 中央研修会の構成

#### 【プレ講座】

1月6日（土）13：00－14：30

「学校で活かすパペットセラピー」

（江川 久美子・足利短期大学）

「逆境に負けない力、心の回復力」

～レジリエンスへの育て方～

（鈴木 水季・郁文館）

「子どもたちのネットモラルをどう育てるか」

（講師：交渉中）

#### 【シンポジウム】

1月6日（土）14：55－18：10

シンポジウムのテーマは、次期学習指導要領のキーワードに対応した企画です。

「『主体的・対話的で深い学び』の実現を考える

～互恵的協同性による学校作りのアプローチ」

基調講演（関田 一彦・創価大学）の後、シンポジストから「授業作りと生徒指導の一体化を目指す」（交渉中）「だれもが行きたくなる学校作り～マルチレベルの支援」（総社市教育委員会関係）「アクティブラーニングを活かしたキャリア教育」（鈴木 建生・ユマニテク短期大学）の実践報告の後、指定討論（栗原 慎二・本学会会長・広島大学）を受け、参加者同士で学び合う予定です。

#### 【コース別講座】

1月7日（日）9：30－15：30

2日目のコース別講座は、以下のように決定しています。

「学級経営力を高める

ハプンスタンス・トレーニング」

（高橋 知己・上越教育大学）

「ロールプレイングを活かした学校教育相談」

（八島 祐宏・作新学院）

「虐待と愛着障害の理解と対応」

（玉井 邦夫・大正大学）

「セカンドステップの実際に学ぶ～幼児から

大人まで社会で役立つスキルとは何か」

（三好 布生加・日本こどものための委員会）

「感覚統合の考え方を

学校教育に活かすために」

（松本 政悦・よこはま港南地域療育センター）

「アクティブラーニングを活かした

道徳教育の可能性」

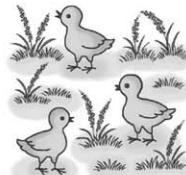
（田沼 茂紀・國學院大學）

「論文の書き方講座」

（渡辺 進・学会誌作成委員会・

新潟県立堀之内高校）

（文責：研修委員長 渡辺 正雄）



### 震災被災者（地）支援委員会報告

本委員会は、平成23年度に会長諮問プロジェクトの一つとして発足し、4名の委員で、子どもたちに最も身近にいる東日本被災地の教師を支援する活動を中心に行ってきました。

特に校内研修支援は、平成28年に石巻市立向陽小学校に入らせていただき、支部理事長及び教育委員会、校長のご理解・支援をいただいてようやく実施できました。

「被災から5年が経過しているが、教師も子どもたちも復興に向けて頑張ってきている。その疲れがやや見え始めている」という現地の声を聞いたことが一つのきっかけでした。

いろいろ議論した結果、「サイコロトーク」「言葉の花束」などの構成的グループ・エンカウンターとグループ・トーキング（グループカウンセリングの応用）を行い、体験された先生方が、自分の教室で子どもたちにも実施できる内容にしました。

向陽小学校の3回の研修後のアンケートの中に、「校内の先生方とゆっくり話す機会が持ててよかったです、教室でもやってみたい」という感想が複数ありました。

今後は、県支部と連携して、支部会員と一緒に要請のあった学校を訪問し、校内研修を行い、会員が実施できる研修プログラムを提供するなど、会員支援の在り方を検証し、その成果を他のブロック・地域にも広げていきたいと考えています。

（文責：支援委員会委員長 砥柄 敬三）

## 会長コーナー

平成29年1月に文部科学省から出された「児童生徒の教育相談の充実について～学校の教育力を高める組織的な教育相談体制づくり～」(報告)の中で画期的な提言がなされました。それは「教育相談コーディネーター」についてです。

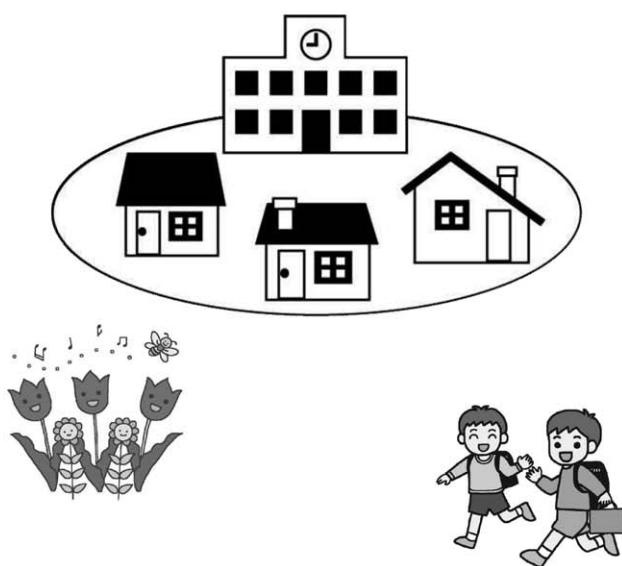
「教育相談コーディネーター」とは、「学校全体の児童生徒の状況及び支援の状況を一元的に把握し、学校内及び関係機関等との連絡調整、ケース会議の開催等児童生徒の抱える問題の解決に向けて調整役として活動する教職員」を指し、「教育相談コーディネーターを中心とした教育相談体制を構築する必要がある」となっています。その配置については、基本的には「担当教員を追加で配置」し、「職務を遂行する上で一定の役割を与えること」「学校の実情に応じ授業の持ち時間の考慮」「学級担任以外の教職員とするなどの配慮も必要」とされています。

これは本学会がその導入を強く主張してきた「相談教諭」とほぼ重なると言って良いでしょう。

「教育相談コーディネーター」が実際の学校に配置されたとき、本学会所属の多くの会員がその役を担うでしょう。それは本学会会員の実力と、本学会の真価が問われるということです。

私たちの思い描いてきた時代が幕を開こうとしています。研修に励み、実践を重ね、研究へと昇華させることが大切です。さらなる研鑽に励みましょう。

(文責：会長 栗原 慎二)



## 事務局より

今年は役員等の改選の年に当たります。2月25日に行われた第一回役員等推薦委員会では、会則の付則3の規定により、委員の互選で畠山先生が（北海道・東北ブロック長）委員長に選出されました。今後は、全国から推薦された候補者一覧を基に、支部代表者を選挙人とし、郵送による信任投票を行います。投票結果は選挙人の過半数をもって信任とします。開票作業は、推薦委員代表の立会いの下に事務局長、事務局次長が行います。

役員等候補者名簿は、支部代表者会、総会に提出し、承認を得る運びとなります。推薦委員の皆様にはご協力を感謝申し上げます。

(文責：事務局長 砥柄 敬三)

## 第53号編集後記

広報委員会は、会報の企画・編集・校正だけでなく、「月刊学校教育相談」(ほんの森出版)の「掲示板のコーナー」の校正も担当しています。本学会の多数の会員が、この月刊誌の著者や読者として関わっていることは皆様すでにご存知だと思います。理論と実践に基づいた内容を拝見するたびに、会報と同様に、そうだなあと納得したり、心がけよう・試してみようしたり、元気が湧いてきます。身体だけでなく、心のエネルギーも必要ですね。

(文責:広報委員長 梅川 康治)

日本学校教育相談学会会報  
第53号  
平成29年6月20日発行  
発 行 日本学校教育相談学会  
会 長 栗原 慎二  
編 集 日本学校教育相談学会広報委員会  
委員長 梅川 康治  
事務局 ☎ 179-0073  
東京都練馬区田柄3-11-28  
日本学校教育相談学会事務局  
電話/FAX 03-3926-7386  
HP <http://www.jascg.info/>